

2/10

# 市大生学友諸君へ！ 斗争デモストレーション

NO1

M I 闘争委員会発行  
(専攻工医生)

2月10日

# 全市大学友諸君！ 権力に屈する大学に対し 共に批判し共に決起せよ！！

(1)市大生学友諸君、医学部斗争の最前線にある我々は、現在の大学の在り方に激しく抵抗している。諸君と共に考へ、共に行動する事は、最早、斗争勝利への道を切り拓くには、不可決なのだ。

我々は、昨年10月医学部病理学教室で起った事件、学生の前で、教授と助教がセミナール指導権の奪い合いを行った事は、教授独裁体制即ち、医局講座制そのものに起因するものである事を鋭く見抜いた。斗争の発端は、真にささいだが、マスコミですりとりあげている「白い巨塔」の内部諸矛盾を、学生の面前においてすら、もう、かくしきれなかっただけなのである。医局講座制における教授独裁体制は、医系を真に国民のものにしない、政府の低度政策、独立採算制をおしつけ、その為の差額ベッド、人件削減、為の無給医の存在等々、真に国民の、大学支配の中心幹として存在する事

を、我々は、今までのインテンシブ斗争等を、その中で確認してきた。この様な、いわゆる権力支配の大学における特徴は、特殊医学部に止まらず、産学共同路線、教授会自治、自主規制路線、さらには、文部省係が大学の管理をするといった副学長制度等々の構想にもみられるように、全市大学規模においてみられることなのである。

我々は、この現在の大学は、奴才にあるべきか、という合理的な問いを自らに向いつつ、大学の管理運営に同じ学生の対等参加をめぐり争ってきた。この争いは、権力とついで、この対立し、対決してゆかねばならぬ、い斗いとしてある以上、我々、争いは、全市の大学友諸君は云々におまかせ、全国の大学諸君と、斗争連帯なくして、権利は、おろか、まさに斗いえないのである。

(2)我々の目指すものは合議制or協議制、近代化路線(民主主義のメニールをかぶった権力の大学支配貫徹路線)では決してなく、対等参加を目差す完全事前合意制である。

我々のこれまでの斗いの過程は、合議制主張との激しい対決をめぐり、議論がない。彼らは、教授会自治を、ただ単に、全教団自治に置きかえることにより、あたかも現在の大学の在り方を根本的に問い、変えろかの様に思っているところ、そのちやまのすべではある。又、そうではなくても、力関係を云々し、現在の斗争を合議制、全教団自治に、おいては、いふべきではないか？